

人材への取り組み

～中期経営戦略推進の土台づくり～

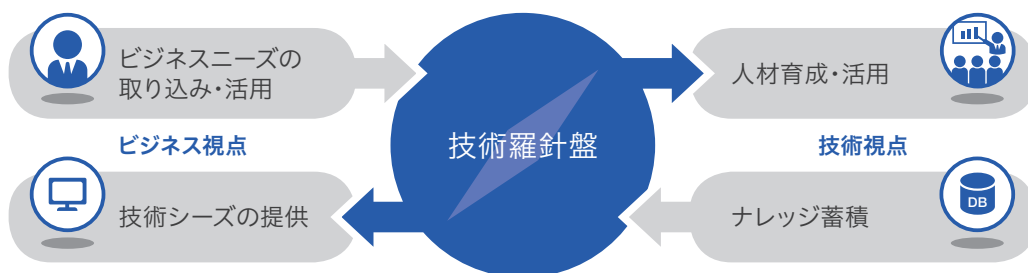
CACグループは、中期経営戦略のもと、デジタルビジネスへのシフトを推進しています。
その推進に必要な人材を育成するための仕組みを整えるとともに、社員一人ひとりがCACグループの目指す方向性を正しく認識し、
自発的に行動していける環境づくりに取り組んでいます。

技術羅針盤の策定

中期経営戦略にのっとり、デジタルビジネスへのシフトを図るため、中核子会社のシーエーシーでは必要な技術領域をリストアップし、その定義や現在の取り組み状況、今後の対応策、事例、ビジネス価値等を細かくプロットした技術羅針盤を策定しました。

今後の当社グループが進むべき技術的方向性を定め、これに従って必要な人材を育成するための枠組みです。この技術羅針盤に基づき、社員一人一人が今後取得すべき技術や、取り組むべき内容を把握できるようになりました。

技術羅針盤のイメージ図



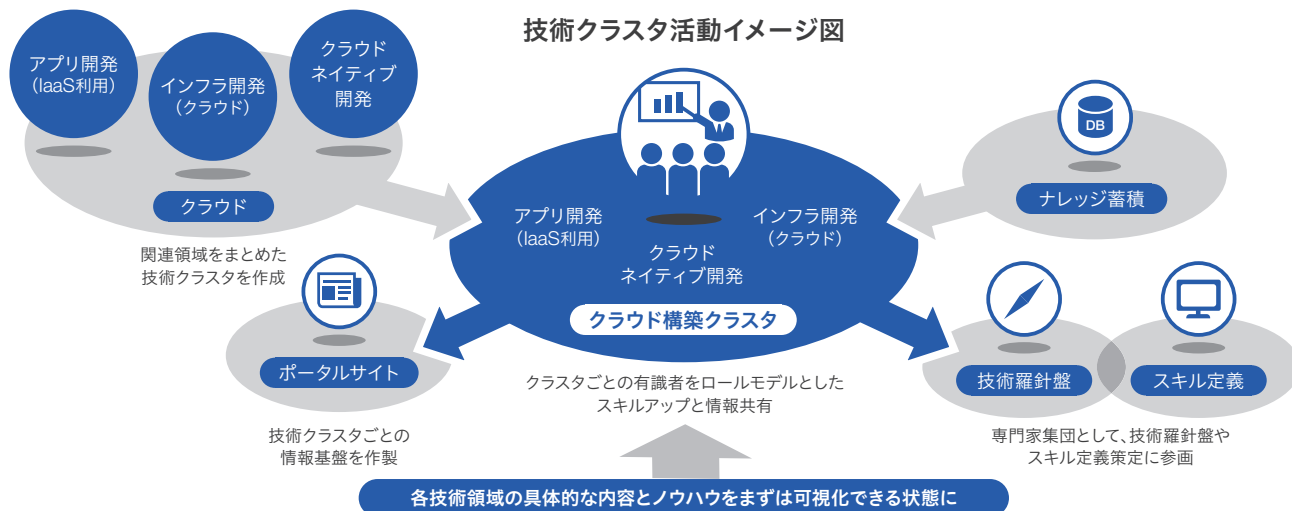
技術クラスタ活動

技術羅針盤に含めた技術の中には、個人の力で学習するだけでは、お客様へ提供できるレベルに達することが困難なものもあります。そこで、同じ技術志向を持つコミュニティを組成し、技術習得に必要な支援を相互に行う「技術クラスタ」活動を2018年から始めました。各自がこれからスキルアップを目指す技術領域が属するクラスタに参加し、技術習得に向けて相互に助け

合い、高め合います。

また、技術情報を社内でスムーズに共有するため、各技術クラスタでは担当領域の技術情報を報告会や社内ポータルサイトで発信するとともに、それを整理、蓄積していきます。社内で技術情報が流通し、必要な時に利用できることにより、デジタルテクノロジーへのシフトを全社レベルで推進していきます。

技術クラスタ活動イメージ図





CAC全社員研修

2018年1月に策定した中期経営戦略の初年度に、シーエーシーでは、全社員を対象とした「CAC研修2018」を約半年間にわたって実施しました。

この研修では、社員一人一人が経営計画や推進すべき戦略を理解することにより、会社の目指す方向性を正しく認識し、自分のやるべきことを考えます。また、他部門の社員と共に取り組む

プログラムを通じて社内の縦横のつながりを強化し、中期経営戦略を推進するための土台を整えます。

研修プログラムには、社長と直接対話する時間や、役員の講話を聴く時間が多めに設けられており、会社が目指している将来像や各部署における新しい技術の可能性について理解を深めることができました。



社長とのディスカッションにおける主な内容

- CACの強み、将来
- 営業力の強化
- 当社の技術（技術羅針盤、クラスタ活動）
- ワークスタイル
- グローバル対応など

社員の要望をカタチに

「CAC研修2018」受講後のアンケートで判明した社員の要望に対応する動きも進んでいます。

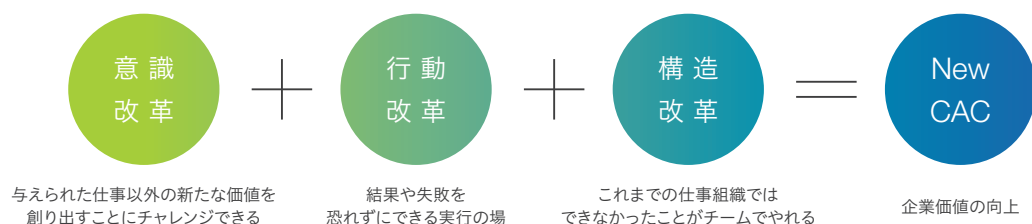
例えば、人材育成や人事評価の見直しへの要望に対しては、各自の業績がより客観的に、また、細やかに評価されるよう、2019年4月より人事制度を刷新しました。

また、風土改革要望の一施策として、「CACチャレンジ」を始めました。CACチャレンジは、社員が自発的に自分のアイデアを

提案できる「場」を提供する仕組みです。CACの企業価値向上につながる取り組み、つまり、CACを良くするための活動であればテーマは不問です。採用された提案には、サポーターとして役員が1名付き、予算や体制を作って取り組みます。

すでに経営トップと社員が直接交流する企画や勤怠管理システムの自社開発など、動き始めている取り組みもあります。

風土改革CACチャレンジの概要



社会との関わり

～ボッチャへの取り組み～

CACグループは2016年から障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・支援活動を開始しました。ボッチャが誰もが知っているスポーツとなること、障害者の方々がボッチャに参加できる機会が拡大することなどを活動目標とし、社員自らが企画・実施することを重視した活動を行っています。

ボッチャの普及・支援活動



「CACカップ」集合写真

当社は日本ボッチャ協会のゴールドパートナーとして、国内での大会運営サポートのほか、審判員資格取得者による審判員活動や普及員による各種イベントでの体験会実施等に加え、2017年からは、さらに多くの方にボッチャを楽しんでいただくために、用具購入がハードルとなっている団体へボッチャ用具を寄贈しています。

また、都内の特別支援学校を対象としたCACグループ主催のボッチャ大会「CACカップ」を開催しており、2018年9月には第2回を開催しました。12校20チーム、約80名の選手が参加し、熱戦が繰り広げられました。



ボッチャ用具の寄贈

トップアスリートへの支援



佐藤駿選手

2018年4月、ボッチャの佐藤駿（さとう・しゅん）選手がCACグループに入社しました。佐藤選手は、小学3年生からボッチャを始め、国内外の大会で活躍、2018年12月の第20回日本ボッチャ選手権大会ではBC2クラスで3位に入賞しました。2017年から日本ボッチャ協会の強化指定を受けており、今後さらなる活躍が期待されるトップアスリートです。

佐藤選手も、CACグループ社員として積極的に講演会や講習会に出かけていき、トップクラスの技術を見せることで、ボッチャの魅力を伝える一助となり、普及・支援をさらに推し進めています。



佐藤駿選手



ボッチャとは？

ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに向けて、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たったりしていかに多くのボールを近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。



ITを活用した観戦環境の整備

事業の一つであるITを活かし、グループ会社のシーエーシーでは、ボッチャボール間の距離を自動測定するAndroidアプリ「ボッチャメジャー」を独自開発し、Google Playにて無料配信しています。

ボッチャメジャーは、ボッチャ的玉であるジャックボールとカラーボール間の距離を測定し、勝敗の判定を補助する画像やデータを表示するAndroidアプリです。デバイスのカメラ機能を使用してジャックボール周辺を真上から撮影することで、近接したボール間の距離を自動測定します。



ボッチャメジャー

グループの活性化へ

こうしたボッチャの活動は、普及・支援の枠を超え、CACグループの活性化にもつながっています。

誰もが簡単にすぐに楽しめ、チームで戦略を練るボッチャは、コミュニケーションツールとしての効果も高いスポーツです。ボッチャを社内の新人研修や全社員研修のカリキュラムとして取り入れることで、CACグループもその恩恵にあずかることになり、参加者同士の親睦が高まって研修全体がスムーズに進みます。グループ社員のほぼ全員がボッチャ経験者となり、その

ルールや魅力を伝えられるレベルに達しています。

自らも楽しむことで、ボッチャの魅力をより深く伝えられるとの信念で、社内にボッチャサークルを立ち上げ、社内での練習会や他社のボッチャクラブとの交流練習会、インクルーシブなボッチャ大会にも参加しています。好きが高じて日本ボッチャ協会登録審判員となった社員が8名います。その中の2名が2018年の日本ボッチャ選手権本大会で審判として活躍しました。



全社員研修



東京カップ(インクルーシブボッチャ大会)



審判として活躍する社員たち

